→ミュージカルに出演された皆さん。地元出演者がページを飛び越えて登場してきます。こちらもご注目あれ！

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」世界遺産登録支援オリジナル市民ミュージカル

赤い花の記憶 天主堂物語

～感動をありがとう～

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録の後押しをしようとオリジナル市民ミュージカルが12月7日、ありえコレジヨホールで上演されました。このミュージカルには、OMURA室内合奏団やミュージカル劇団夢桜、そして、南島原市民の中から公募で選ばれた23人が参加しました。

舞台は、フランス人神父のプチジャンと天草出身の大工棟梁小山秀之進との対立や交流を軸に、長崎居留地の大浦天主堂建設と信徒発見、浦上四番崩れ、日本におけるキリスト教復活と浸透にいたるまでの450年におよぶ道のりをさまざまなエピソードを交えながら描く壮大な物語。このミュージカルの企画制作は、大村市文化・スポーツ振興財団が行い、大村市や天草でも上演しました。

地元から応募した下は7歳から、上は69歳の23人は、プロの先生たちの指導を受け、昨年8月から練習に励んできました。ほとんどの人がミュージカル初心者ということで、歌もダンスも苦労されたそうです。

本番当日、会場には約700人のお客さんが来場。大勢のお客さんが見つめるにもかかわらず出演者たちは、堂々と、そして思いのこもった演技を披露し、涙を誘いました。

市民出演者を代表して相良伸介さんは「ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。指導してくださった先生、出演者、スタッフの皆さんに支えられ、無事に本番を終えることができました。地元出演者一同、心からお礼申し上げます。先生の厳しい指導、歌やダンスの難しさに、何度もくじけそうになることもありましたが、メンバーで励まし合い、協力しあって乗り切りました。あらためて南島原市の歴史を勉強する良い機会にもなりました。原城跡、日野江城跡のあるこの地で、このミュージカルをやれたことはとても意義深い事だったと思います。たくさんの出会いと感動を頂き、ミュージカルを通して素敵な種をまいてもらった気がします。その種を大切に育て、この地に素敵な花を咲かせたいと思います」と話しました。